

建築生産設計協力会向け BIM/ACC活用に関する報告

項目	内容
イベント名	251021 生産設計協力会 定例打合
日時	2025年10月21日 (火) 16:00~17:30 SAI総合企画会議室で実施
報告者	竹中工務店 プロダクト部BIMグループ 滝本秀明グループ長
テーマ	Autodesk Construction Cloud (ACC) の活用、およびACCユーザー会について
参加企業	アイテック、池下設計、エムシーエム、SAI総合企画、 SAIテクニカ、佐沼建築システムデザイン、施工図屋さん、西建設計、YOU建築

1. 要旨

竹中工務店の滝本グループ長より、BIM(Building Information Modeling)およびCDE(共通データ環境)としてのACC(Autodesk Construction Cloud)の活用に関するセミナー。

BIMを単なる3Dモデリングではなく「楽になるためのツール」と捉え、「作る形、入れる情報、使う目的」を明確にすることの重要性が強調されました。特に、生産設計協力会といった管理・委託側の立場において、ACCを活用することで、進捗管理や工数管理、不明点の共有といった業務がデジタルで効率化される可能性についての講演。

2. BIMの基本理念と活用

- **BIMの本質:**
3D(立体形状)に、材質・強度・数量などの情報(インフォメーション)を付加し、それらを活用すること。
- **活用の鍵 :**
「何に使うか」という目的を明確にしないまま、形や情報を入力することは工数増を招くため、依頼側(ゼネコン)と受託側(生産設計)で初期段階での合意形成(どこまでモデリングするか、どの情報を入れるか)が最も重要である。
- **活用事例:**
 - 数量積算への利用。
 - 外壁やコンクリートなど構造体への仕様情報入力による見積もりへの連携。
 - 工事工程表と作図工程表のデータ連携による進捗管理の可視化とアラート機能の実現。
 - モデルに「物決め(仕様決定)」の進捗情報を紐付け、設計者や顧客との合意形成を促進。

3. ACC (Autodesk Construction Cloud) の活用と生産設計への提案

- **CDE(Common Data Environment)としてのACC:** ACCを、図面・議事録・質疑応答などのドキュメント管理、図面回覧・指摘管理、現場写真管理などを行う共通データ環境として利用する。
- 管理業務の効率化:
 - 現場監督がアナログで実施していた各種調整やチェック(例: 工事工程と承認状況の逆転防止)をデータ連携により自動化・可視化。
 - 実際の工数(出来高)と契約時の工数(部掛)の比較分析を行い、原因究明や今後の生産性向上に役立てる。
- 生産設計協力会への提案:
 - ACCの機能(アセット管理など)を利用し、「今日どこまで完了したか」というモデル・図面作成の進捗を可視化して共有することを提案。これにより、現場側が抱くモデルの「できちゃった感」を解消し、正確な工数・進捗管理を可能にする。

4. ACC活用における人材と教育

- 現場担当者の教育レベル: ACCの利用スキルは過度に求める必要はない。「モデルを開いて断面を切る」「指摘事項のピン打ち」「図面回覧のレビュー(ステータス変更)」など、15~20分のレクチャーで習得可能なレベルで十分である。
- データ管理者(BIMマネージャー)の重要性:
 - BIMやACCを推進・整備する専門的なデータ管理者の存在が不可欠であり、社内および外部の協力会社を含めた育成が必要。
 - 採用・育成の方針として、BIMや建築の知識よりも、操作に慣れた**「パソコンゲーム経験者」**など、デジタルツールを扱うことに抵抗のない人材を求めている。
※SE等の高度な人材までを求めている。

5. ACCユーザー会について

- 清水建設、ダイワハウスなどと共同で発足。
- 目的は、各社の活用事例共有、共通課題の意見交換、およびオートデスクへの機能改善要望を一元化しフィードバックを行うこと。
- 人材育成の一環として、人材派遣会社にも協賛企業として参加を促し、ACCの初期教育を施した人材の派遣体制を整備している。